

新時代へ伸びる道



春分の日(3月21日)を中心に前後3日間を含めた7日間は春のお彼岸。古くから「暑さ寒さも彼岸まで」と言われ、自然界は百花繚乱の春を迎える。社会生活でも3月は年度末ということで、「けじめ」とな

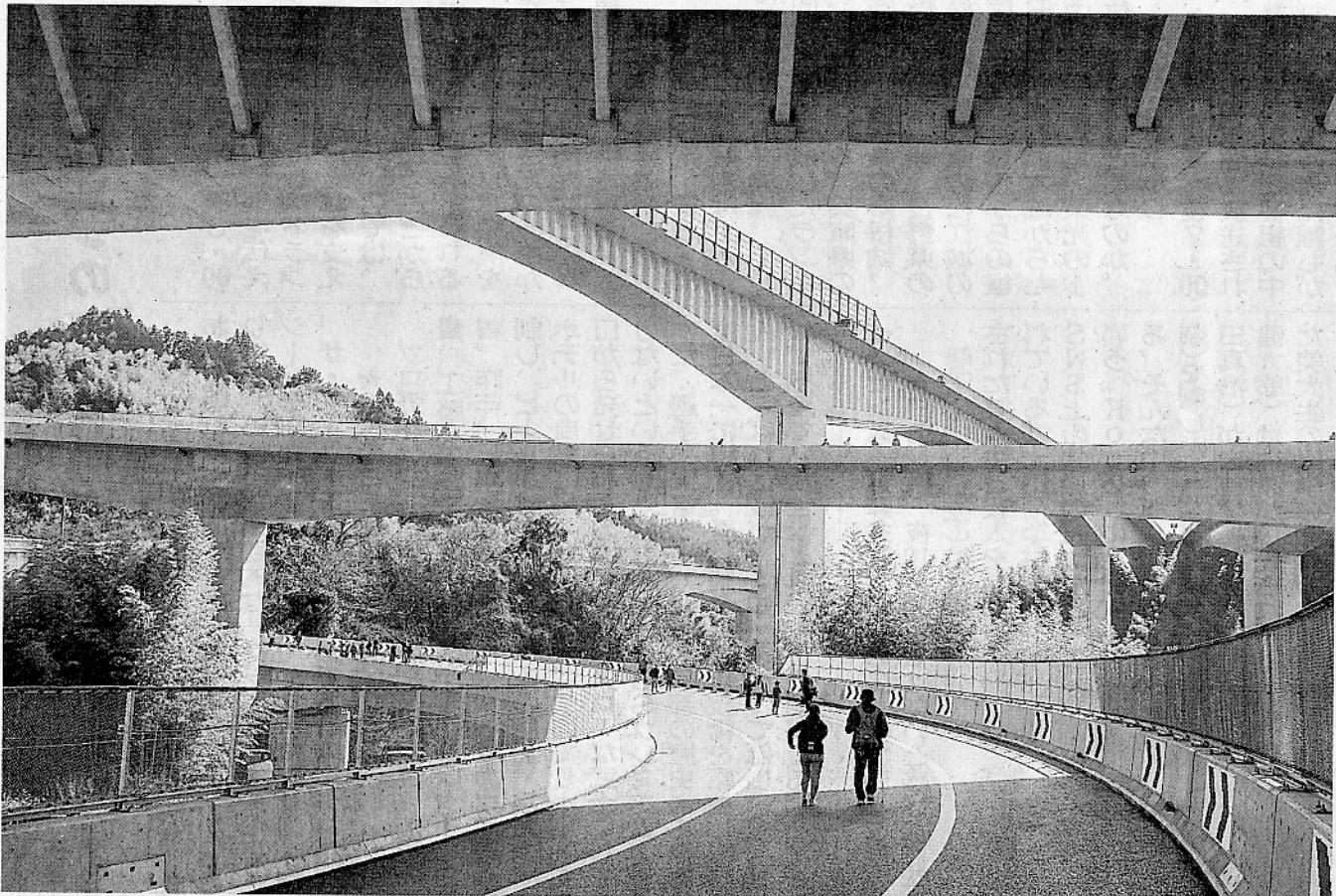
る出来事が多い。静岡、山梨両県を結ぶ中部横断自動車道の新清水ジャンクション(静岡市清水区)―富沢インター(山梨県南部町)間の20・7kmが、10日開通した。静岡、山梨両県が高速道路で直接結ばれたのは初めてで、両県の交流にとって画期的なニュースとなった。同自動車道とはば並行し

て流れる富士川でつながる両県の交流の歴史は古い。江戸時代、甲信の年貢米は富士川を舟で下り、蒲原、清水を経て江戸に送られた。富士川両岸の道は武田、今川家などの戦国武将が軍を進めた戦の道であり、身延山への信仰の道でもあった。

急流で知られる富士川沿いの自動車道は、その急峻な山間部を縫うように走っている。今回開通した部分の約半分の11・7kmはトンネルで、3・7kmは橋。文字通り山をくりぬき、谷を橋でつなぐ難工事だった。開通した部分は県内区間の高速道路では初の暫定2車線通行(対面通行)のため、安全面が重視された。トンネル内には、漫然運転防止のため注意を促すアクセント照明が施され、道路中央部には対向車線からの飛び出しを防止するワイヤロープも設けられている。

全線開通は2020年度中になりそうだが、新東名や清水港に直結したことで、物流や観光需要の期待が高まるほか、災害時の緊急輸送路や緊急患者の移送などにも期待されている。

3月20日、今年の桜(ソメイヨシノ)の開花前線が九州・長崎県に上陸した。静岡の開花も近い。これから約2カ月、桜前線は日本列島を北上しながら、花のカーテンで「平成」という時代に幕を下ろして行く。(前静岡県監査委員・富永久雄)



新東名につながった中部横断自動車道の新清水ジャンクション=静岡市清水区、全日写連・中村紀子さん撮影